

4:1 サウルの子イシュ・ボシェテは、アブネルがヘブロンで死んだことを聞いて、気力を失った。全イスラエルもおじ惑った。

4:2 サウルの子イシュ・ボシェテのもとに、二人の略奪隊の隊長がいた。一人の名はバアナ、もう一人の名はレカブといて、二人ともベニヤミン族のベエロテ人リンモンの子息であった。ベエロテもベニヤミンに属すると見なされていたのである。

4:3 ベエロテ人はギタイムに逃げて、そこで寄留者となった。今日もそうである。

4:4 さて、サウルの子ヨナタンは、足の不自由な息子が一人いた。その子が五歳のときのこと、サウルとヨナタンの悲報がイズレエルからもたらされ、彼の乳母は彼を抱いて逃げた。そのとき、あまりに急いで逃げたので、彼を落としてしまった。そのために足の萎えた者になったのであった。彼の名はメフィボシェテといた。

4:5 さて、ベエロテ人リンモンの子のレカブとバアナが、日盛りのころ、イシュ・ボシェテの家にやって来た。そのとき、イシュ・ボシェテは昼寝をしていた。

4:6 彼らはやって来て、小麦を扱う者として家の中まで入り込み、彼の下腹を突いた。レカブとその兄弟バアナは逃げた。

4:7 すなわち、彼らが家に入ったとき、イシュ・ボシェテが寝室の寝床で寝ていたの、彼らは彼を突き殺して首をはねた。彼らはその首を持って、一晩中アラバへの道を歩いて行った。

4:8 彼らはイシュ・ボシェテの首をヘブロン

「ご覧ください。これは、あなたのいのちを狙っていたあなたの敵、サウルの子イシュ・ボシェテの首です。【主】は今日、わが主、王のために、サウルとその子孫に復讐されたのです。」

4:9 ダビデは、ベエロテ人リンモンの子レカブとその兄弟バアナに答えて言った。

「【主】は生きておられる。主は私のたましいを、あらゆる苦難から贖い出してくださった。」

4:10 かつて私に『ご覧ください。サウルは死にました』と告げて、自分では良い知らせをもたらしたつもりでいた者を、私は捕らえて、ツィクラグで殺した。それが、その良い知らせへの報いであつた。

4:11 まして、この悪者どもが、一人の正しい人を家の中で、しかも寝床の上で殺したとなれば、私は今、彼の血の責任をおまえたちに問い、この地からおまえたちを除き去らずにいられようか。」

4:12 ダビデが命じたので、若い者たちは彼らを殺し、手足を切り離した。そしてヘブロン

イシュ・ボシェテは自分の野心のために、神を無視してダビデの敵となり、彼の命をねらいました。そしてその報いを受けたのです。ダビデは自分に益をもたらしてくれたレカブとバアナを褒めてもよいところですが、それもまた自分中心な考えです。

ダビデは自分の益よりも、神の正義を優先させました。彼らを罰したのです。神の働きをしていると自負しているときには自分にとっての利害が全てであるかのように判断してしまいそうになり

ます。しかし主のために生きる者は、主の正義と主の計画を第一にするものです。それが成功の鍵であることを忘れないようにしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあつて何を実践しますか？

